

自己評価報告書

平成23年5月12日現在

機関番号：32689

研究種目：新学術領域研究（研究領域提案型）

研究期間：2008～2012

課題番号：20101003

研究課題名（和文） エリート、ガバナンス、政治社会的亀裂、価値

研究課題名（英文） The Elite, Governance, Socio-political Cleavages, and Values

研究代表者

唐 亮 (TANG LIANG)

早稲田大学・政治経済学術院・教授

研究者番号：10257743

研究分野：総合領域

科研費の分科・細目：情報学・情報学基礎

キーワード：統治モデル 政治エリート ガバナンス 社会的亀裂 宗教政治 体制移行 国家統合 分配政治

1. 研究計画の概要

本研究は中国、ロシア、インド、トルコが地域大国として発展する条件と戦略を比較研究する国際的にも先例のない試みである。具体的には、次の4つの課題について4国を比較する。①エリートの選抜方法の違い（競争選挙・複数政党制の普及度の違い）がエリートの選考や政治体制全般の性格にいかに関与しているか。②ガバナンスと民主化の要請をいかに折り合わせようとしているか。③開発優先の成長政策の中で深刻化する社会的亀裂をいかに統御しようとしているか。階級、地域、民族、宗教間の利益調整のメカニズムはいかなるものか。④一極世界的・普遍主義的言説にいかに関与しているか、あるいはしていないか。自国史において大帝国を建設した経験がこんにちの価値観や大国言説をいかに規定しているか。また、本研究は比較分析を行う際に、「民主化か独裁か」といった二項対立ではなく、地域大国の発展戦略の多様性を取り上げながらも、ダイナミックな変化にも着目し、政治理念とそれに基づく政治経済システムが互いに接近する可能性をも追求する。さらに、従来のアジア、旧ソ連圏といった近接地域内の比較とは異なり、規模のファクター（中・露・印の大国性）が政治に持つ意味に注目する。

2. 研究の進捗状況

平成20年度は予備を含む計3回の研究会を開催した。各地域大国が文明の復興、世界の中心国になろうとする共通点を持ちながら、異なる政治体制で経済社会的な開発を進めようとするといった点に着目し、研究重点

を「政治体制と地域大国の統治モデル」に置くことに決めた。具体的には、以下のような共通の問題意識を持ちつつ、資料収集・解析の作業を行った。1) 各政治モデルは地域大国の近代化のプロセス、つまり経済発展、ガバナンスの能力、社会的な亀裂の解消、市民社会の形成などにかんする影響を与えるか。2) 評価の基準はどのように設定すべきか。3) プラス、マイナスに働く「影響」「結果」「効果」をどう論理的に説明するか。4) 民主化先行モデルと権威主義モデルの違いを「価値」として捉えるか、または発展の経路、発展戦略として捉えるか。5) 開発独裁モデルの「変容」はなぜ、またどのように可能となるか。各分担者はそれぞれ海外現地調査を実施するほか、政治エリートの研究は中国国内の研究者の協力を得て、データベースの作成に着手した。

平成21年度は計3回の研究会、3回の国際セミナー、新学術領域研究の第2回国際シンポジウムである「ユーラシア地域大国の政治比較」を主催・共催し、『比較地域大国論集』第2号を編集・出版した。分担者は各自の分担に沿って比較研究を行った。個別の比較研究は以下のようなテーマを中心に展開された。第1に、体制移行に関する研究である。中国、ロシアの体制改革はどのように行われたか、インドの民主政モデルと中国の権威主義モデル、ロシアの競争的権威主義モデルはどこがどう違うか、その違いをどう評価するかを検討した。また、分析の視野を国レベルからリージョン、コミュニティレベルに広げ、村のガバナンス、自治と公共財に関する中露

比較研究、土地収用問題を例に社会紛争の解決方法に関する中印の比較分析を行った。第2に、価値と社会的亀裂との関連で、地域大国の宗教政治はどのように展開されているか、各国の宗務管理はどのように行われているかについて比較研究を試みた。

平成22年度は計3回の研究会、2回の国際セミナー、経済班との合同研究会を開催し、多くの分担者は相互乗り入れの形でロシア、中国、インドとトルコで現地調査を実施した。実証分析では、「国家統合のモデル」に関する比較分析を行った。インドは終始連邦制を採用しているが、ロシアと中国は秩序の安定化と民主化とのバランスを図りながら、分権化と集権化の試行錯誤を繰り返している。「価値の変容と体制移行」の比較は中国とロシアの政治改革を中心に行った。「政治エリート」は選挙制と任命制がエリートの育成、政策指向とガバナンスの能力にいかなる影響を与えるかを分析した。「社会的亀裂と分配政治」は、競争的な選挙制度の有無との関連性を調べた。競争選挙が行われる国では、利益誘導の傾向が強い。権威主義国家では、抗議活動、社会問題は政治的圧力となり、政府の分配政策に影響を与えている。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展していると考えている。1) エリート、ガバナンス、政治社会的亀裂、価値といった問題設定に沿い、現地調査を実施し、共同研究を行った。2) 比較分析の枠組みが確立されつつある。3) 中間成果は論文、国際シンポジウムで公表されたほか、最終結果の出版計画をもまとめた。

4. 今後の研究の推進方策

1) 国別の調査の寄せ集めにならないよう、現地調査も含めて研究の相互乗り入れを最大限実現する。現地調査・一時資料収集上の困難を克服するために、現地の研究者との連携を強化し、委託研究を展開する。

2) 大規模な現地調査・委託研究を展開し、一次的データを用いた国際競争力ある成果を生み出す。4国のエリートと政治機構について指標を揃え比較可能なデータ収集を行い、比較可能なデータベースを構築する。

3) ほかの研究班、関係学会との連携を強化して、2011年に国際セミナー、2012年に国際シンポジウムを主催・共催して、見るべき知見は国際会議や海外での学会において迅速に国際化し、フィードバックを受けるという機動的サイクルを保つ。

4) 2012年度に研究の集大成となる「ユーラ

シア地域大国の政治比較」を取りまとめると同時に、研究の成果は英語圏の一流査読誌に特集号を出させることをはじめ、日本語、露語、中国語、トルコ語でも出版を追求する。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計5件)

- ① 唐亮「体制転型的模式、初期条件与社会主義国家的転型」『当代中国政治研究报告』、社会科学文献出版社。査読有。
- ② Kimitaka Matsuzato & Fumiko Sawae Religion, State and Society, Vol. 38, No. 4, pp.331-360. 査読有。
- ③ 高原明生「中国の台頭とその近隣外交——日本外交への示唆」、『RIETI Discussion Paper Series』、2009年、1-19頁。査読有
- ④ 大串敦「統治の形態か、それとも統治の程度か? ——ポスト共産主義ロシアの政治変容——」『法学新報』707-736頁。査読有
- ⑤ 江史子、「移民をめぐるトランスナショナル政治と出身国」、日本比較政治学会編『国際移動の比較政治学 (日本比較政治学会年報第11号)』2009年、ミネルヴァ書房、37-68頁。査読有。

[学会発表] (計3件)

- ① Atsushi Ogushi, “Russian Bureaucratic Elites: Patrimonial or Technocratic?”, International Council for Central and East Europe an Studies (ICCEES) IX World Congress, 2010年7月27日, City Conference Center, Stockholm.
- ② 松里公孝「非アラブ辺境におけるムスリム行政の類型論: トルコ、ロシア、インド、中国」第11回国際コンフェレンス「良心の自由: 国際的標準と各国の実例 (ロシア極東とアジア太平洋諸国)」2010年4月20-21日ブラゴヴェシチェンスク (ロシア)
- ③ 新学術領域研究の第2回国際シンポジウムである「ユーラシア地域大国の政治比較」を2009年秋に主催。

[図書] (計3件)

- ① 唐亮編『比較地域大国論集』第2号。
- ② 松里公孝編、講談社、『スラブ・ユーラシア学、第3巻、ユーラシア—帝国の大陸』、2008年。
- ③ 高原明生(共編)、『現代アジア研究 1 越境』、慶應義塾大学出版会、2008年。

